

令和3年産

# 仙南稲作情報（第5号）

令和3年7月21日発行

宮城県大河原農業改良普及センター

TEL：0224-53-3431 FAX：0224-53-3138

※この資料に関する問い合わせは、  
上の連絡先までお願いします。

○7月16日梅雨明け(平年より8日早い)。

○梅雨明け以降好天が続き、稲の生育が進んでいるため、出穂期は平年※よりも2~4日程度早まる見込み(南部平坦は7月28日頃の見込み)。

○南部平坦では、まもなく出穂を迎えるので、低温時を除いて、間断かん水を実施しましょう。

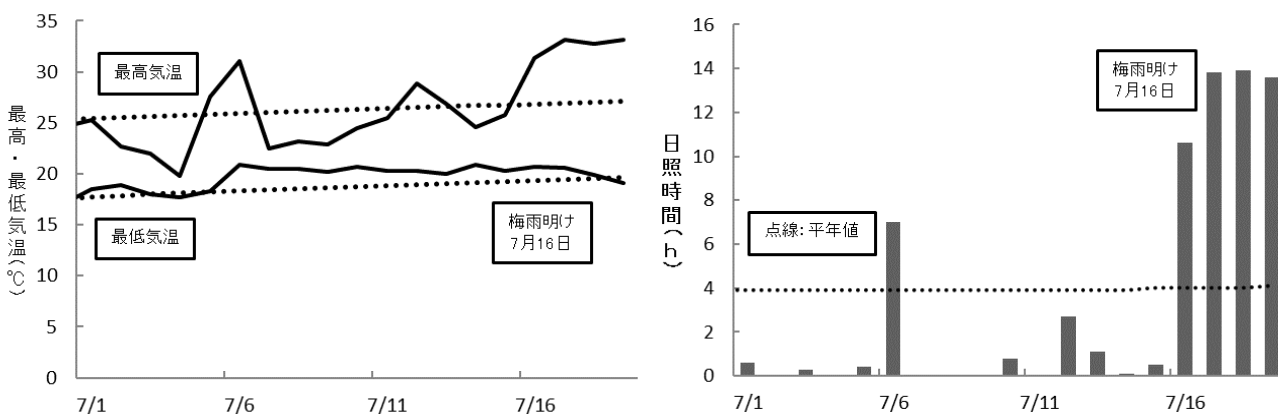
○減数分裂期追肥を実施する場合は、遅れずに実施しましょう！

○穂揃期には斑点米カメムシ類の防除を徹底しましょう！

※南部平坦の平年値：8月1日(過去10年間の最大・最小を除いた8か年平均)

## 1 気象経過 (丸森アメダス, 7月1日~7月19日)

- 7月は、最高気温及び最低気温ともに平年より高く推移し、平均気温も平年よりも高く推移しました(平年差+0.6℃)。
- 日照時間は平年よりもやや少なく(平年比88%)、降水量は7日にまとまった降雨があり、平年並でした(平年比100%)。



※仙台管区气象台(7/15発表)の「向こう1か月の天候の見通し」では、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みで、期間の後半は、天気は数日の周期で変わる見込みです。

## 2 管内の生育状況

### 【7月20日調査結果】

(水稻生育調査ほ結果)

- 南部平坦の「ひとめぼれ」は、幼穂長が約167mmで、「穂ばらみ期」をむかえ、間もなく出穂すると見込まれます。
- 南部平坦の「つや姫」は、5月上旬植えは、幼穂長が約34mmで、すでに「減数分裂期」に達しています。5月下旬植えて、幼穂長が約5mmで「幼穂形成期」に達しているとみられます。

- ・西部丘陵の「ひとめぼれ」は、幼穂長が約95mmで、「減数分裂終期」に達しています。
- ・山間高冷の「やまのしずく」は、幼穂長が約35mmで、すでに「減数分裂期」に達しているといわれます。

□ 皆さんのほ場と場所や品種、田植日が近いところのデータを参考して下さい。

### □ 管内の生育調査結果（7月20日）

No	ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈			茎数			葉数			葉色			幼穂長		
				本年	前年	(cm)	平年比	前年比	(本/m <sup>2</sup> )	平年比	前年比	(枚)	平年差	前年差	(GM)	平年差	前年差	(mm)	平年差	前年差
1	角田市	南部平坦	ひとめぼれ	5/14	5/16	75.8	103	100	420	95	82	12.4	▲0.4	▲0.5	33.7	▲1.2	▲6.6	166.5	36.7	102.9
2	大河原町	南部平坦	ひとめぼれ	5/8	5/9	83.3	108	110	566	105	106	13.0	0.9	0.7	33.2	1.0	▲0.8	166.7	87.0	106.7
南部平坦平均 ひとめぼれ				5/11	5/12	79.6	106	105	493	100	94	12.7	0.3	0.1	33.5	▲0.1	▲3.7	166.6	61.8	104.8
3	角田市	南部平坦	つや姫※	5/20	5/23	77.3	106	112	522	106	98	11.4	▲0.6	▲0.2	40.6	1.2	▲2.7	4.6	▲1.9	2.8
4	村田町	南部平坦	つや姫※	5/4	5/5	77.3	106	110	431	92	106	11.9	▲0.3	▲0.7	36.5	▲2.3	▲3.8	34.0	26.4	26.3
5	白石市	西部丘陵	ひとめぼれ※	5/15	5/19	74.8	114	125	435	130	124	12.7	1.1	1.3	37.4	0.5	1.1	95.3	67.2	68.2
6	七ヶ宿町	山間高冷	やまのしずく	5/22	5/23	66.1	104	97	476	109	78	11.5	0.9	0.6	41.4	▲1.6	▲1.1	34.5	16.9	22.8

※白石市小原「ひとめぼれ」(調査5年目)は、西部丘陵「ひとめぼれ」の平年値との比較

角田市「つや姫」(調査3年目)及び村田町「つや姫」(調査2年目)は、南部平坦「つや姫」の平年値との比較

### □ 「だて正夢」調査ほ

- ・南部平坦の「だて正夢」は、幼穂長約190mmで「穂ばらみ期」に入っており、間もなく出穂すると見込まれます。
- ・西部丘陵の「だて正夢」は、幼穂長約7mmで、すでに「幼穂形成期」に達しており、約1週間程度で「減数分裂期」に達すると見込まれます。
- ・茎数は、南部平坦及び西部丘陵ともに有効茎数を確保しており、葉色は41ポイント程度と順調に生育しているとみられます。

ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈		茎数		葉数		葉色		幼穂長	
			本年	前年	(cm)	前年比	(本/m <sup>2</sup> )	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差	(mm)	前年差
角田市	南部平坦	だて正夢	5/4	5/5	88.8	114	384	95	12.7	0.5	40.5	1.1	190	174
蔵王町	西部丘陵	だて正夢	5/23	5/19	83.1	112	423	99	11.0	0.4	41.4	1.7	7.2	2.7

## 3 今後の管理

### 【出穂時期の予測】

- ・出穂は、ほ場毎に異なります。幼穂長を測定して、出穂までの日数を把握しましょう。
- ・幼穂長の測定が困難な場合には、下表を参考にしてください。

表 幼穂の発育過程と出穂期までの日数等の目安

発育過程	幼穂形成期	減数分裂期	
		始期	終期
幼穂長	1~2mm	30~40mm	80~100mm
葉耳間長	-	-10cm	±0cm
出穂前日数	25日	15日	12日

地帯区分	標高	田植時期	幼穂形成始期	減数分裂期	出穂期
南部平坦	0~100m	5/4~5/17	6/28~7/7	7/8~7/17	7/26~8/1
西部丘陵	101~250m	5/6~5/24	7/2~7/14	7/12~7/24	7/30~8/8
山間高冷	251m~	5/12~5/31	7/10~7/22	7/20~8/1	8/7~8/19

※古川試験場出穂期予測モデルによる推定(苗葉令3葉、アメダス実測値及び平年値からの予測)

## 【水管理】

### ① 低温時の深水管理

- 幼穂形成期から出穂開花期にかけては、低温の影響を受けやすい時期で、特に減数分裂期は、稲が最も低温\*に弱い時期です。低温時には、直ちに深水管理とし、幼穂を低温から保護しましょう。
  - 水深は、幼穂の伸長に合わせ、段階的に深くしましょう。けい畔の補修がまだの場合は早急に行ってください。
- ※日平均20℃以下又は最低気温が17℃以下になると障害型冷害の危険性が高まります。

#### 深水の目安

幼穂形成期：出穂 25～15 日前  
水深 10cm

減数分裂期：出穂 15～10 日前  
水深 17～20cm

### ② 通常の水管理

- 中干し後～出穂期までは、根に十分に水分を与えつつ酸素を供給できるように間断かん水としましょう。
- 出穂開花期は水を最も必要とする時期なので、浅水管理とします。
- 収穫作業前の落水の適期は出穂後25日目頃ですが、ほ場の保水力（乾きやすさ）や天候による乾湿の状態などを考慮して決定しましょう。
- ◆ 倒伏が心配されるほ場では、収穫作業前の落水期まで飽水管理としましょう。飽水管理とは、田面の足跡に水がなくなったら入水し、土が十分湿ったら落水する、を繰り返し、根の健全化と茎の充実を図る栽培法です。

### ③ 出穂後の高温時

- 出穂後の20日間で最低気温が23℃以上となる異常高温が連続するような場合、乳白粒などの「白未熟粒」による品質低下が発生するおそれがあります。高温時には、可能な限りの対策を取りましょう。

[対策の例]

掛流しかんがい	• 気温より温度の低い用水を十分に掛け流すことで、水温及び地温を湛水状態より低く抑える方法である。ただし、10a当たり毎分200～300リットル程度の用水が必要となる。
昼間深水・夜間落水管理	• 掛流しかんがいよりも水温及び地温を低下させる効果は小さいが、十分な用水量を確保できない場合でも実行しやすい方法である。 • 午前9～10時頃かん水し、気温が水温を下回り始める午後4時頃に落水する。
飽水管理	• 掛流しかんがい程の効果は得られないが、慣行（常時湛水）よりも夜間の最低地温が低くなるとともに、根の活力維持に効果がある。

## 【追肥】（田植えの遅いほ場など、これから必要となるほ場のみ）

- 梅雨明け以降好天が続く、幼穂の伸長が進むとともに葉色も低下してきているので、必ずほ場毎にイネの生育状況を確認し、追肥の時期と量を判断してください。
- 穂揃期以降の急激な葉色低下は、高温時の白未熟粒の発生に繋がりがやすいので、登熟期間の窒素栄養を高める減数分裂期の追肥を適切に実施しましょう。
- なお、中干しが不十分なほ場においては、慎重に判断しましょう。
- 追肥後は、一時的に「いもち病に対する抵抗力が弱まる」ので注意しましょう。
- 「だて正夢」は、減数分裂期に窒素成分で10a当たり2kg追肥することが基本となっています。

○穂肥要否判定指標値及び目安

品種名	幼穂形成期			減数分裂期		
	葉色		施用時期と窒素量	葉色		施用時期と窒素量
	葉色版	葉緑素計		葉色版	葉緑素計	
ひとめぼれ	5.0~5.5	38~40	出穂25~20日前 1kg/10a	4.5~5.0	35~37	出穂15~10日前 1kg/10a
つや姫・ まなむすめ	3.9~4.2	35~37	出穂25~20日前 2kg/10a	—		
ササニシキ	—			3.4~3.7	32~34	出穂15~10日前 1~1.5kg/10a
だて正夢	—			5.0	37~39	出穂15~10日前 2kg/10a

【 病虫害防除 】

① いもち病

- ・7月9日に、いもち病の注意報が発表されていますので、ほ場の見回りと穂いもちの予防防除に努めましょう。
- ・梅雨明け以降、管内のアメダスポイントでは「いもち病」の感染に好適・準好適な条件は出現していませんが、常発地帯では、ほ場の見回りをこまめに行い、早期発見・早期防除に努めてください。  
(※JAこだわり米等に取り組んでいる場合は、防除の前にJAに相談してください。)

② 斑点米カメムシ類

- ・ **水田周辺の雑草地、けい畔などの草刈りは終了すること**
- ・ **出穂が早まる見込み。穂揃期の薬剤防除に向けて準備を！**

□管内の出穂期は平年よりも早まる見込みです。今後の草刈りは、カメムシ類を水田に追い込むことになるので、避けましょう。

□殺虫剤による薬剤防除

- ・薬剤防除は、穂揃期とその7~10日後の2回防除が基本です。
- ・早生品種など周辺ほ場より出穂が早いと、被害が集中する危険性が高まりますので、穂揃期に遅れずに薬剤防除しましょう。

□薬剤防除は広域的に行うと効果が高いため、地域一斉防除に努めましょう。

□水田内にヒエやイヌホタルイ等の雑草があると、出穂前でもカメムシ類を水田に呼び寄せてしまいます。→残草がある場合は、1回目の防除時期を早めましょう(出穂始~穂揃期)。

< 斑点米カメムシ類 >

※本県の主要種：アカスジカスミカメ

